

大崎農業改良普及センターだより

FROM  
Osaki  
Osaki

Vol. 161

2024年6月21日

Pick Up!

指導農業士  
**(株)まやまの**  
**さとうファーム**  
に聞いてみた!

第3回全国トマト選手権  
最高金賞受賞の喜びの声

(特長)

(特長)

M式水耕肥料はM式水耕研究  
の長年の研究により開発され  
水耕専用肥料であり、各種作物  
に対してすぐれた生育が期待で  
きます。

(施用方法)

ます。

## 令和6年度普及指導計画の紹介

大崎農業改良普及センターでは、4つのプロジェクト課題を設定し活動します

### 農地整備を契機とした地域営農体制の構築【R5～R6】

対象：清水集落営農組合員 23人【色麻町】

色麻町清水地区は、農地整備事業を契機に担い手への農地集積や高収益作物の導入を行う計画であり、清水集落営農組合を対象に地域営農体制の構築を支援しています。

令和5年度は関係機関と連携し、アンケート調査や視察研修、6回の座談会により、法人化後の地域将来ビジョンに対する個々の思いや課題などを地域で共有するとともに、法人化検討会を立上げ、検討を進めることを確認しました。令和6年度は、さらに検討を加速化し、地域計画につながる具体的な法人化計画の作成や高収益作物の導入を支援していきます。



↑法人化に向けた検討会の様子

### 加美地域におけるさつまいもの新たな産地形成に向けた生産技術の確立【R6～R7】

対象：JA加美よつば管内新規生産者、有限会社ライスアーティスト【色麻町、加美町】

JA加美よつばでは、高まるさつまいも需要に対応するため、早期の産地化を目指し、新規の作付け拡大を推進しています。しかし、寒冷地に位置し、生育期間の限られる加美地域において収量・品質を安定的に確保するためには地域の気候に合わせた栽培技術の体系化が不可欠です。普及センターでは、地域内で先進的にさつまいも栽培に取り組んできた(有)ライスアーティストのノウハウを見える化しながら、栽培技術の体系化を進め、新規栽培者の安定生産を支援していきます。



↑さつまいも育苗の研修会

### 中山間地農業の核となる農産物直売所の組織運営能力向上【R5～R7】

対象：農事組合法人やくらい土産センターさんちゃん会【加美町】

普及センターでは加美町と連携し、中山間地の農産物直売所の経営改善に向けて様々な支援を行っています。

令和5年度はPOP作成に関する研修会の開催や売り場環境改善、若手生産者を主体としたイベントの開催支援などを行いました。2年目となる今年度は、栽培技術支援によるさらなる品質向上や地場産農産物を用いた特産品の開発支援などの活動を行っています。



↑POP研修会の様子

## 子実用とうもろこしを含む水田農業の輪作技術体系の確立【R5～R6】

対象：JA古川管内、法人 1 経営体【大崎市】

飼料高騰により全国的に注目されている子実用とうもろこしを組み入れた、大豆、水稲の水田農業の3年3作の輪作体系の確立により農業者等の所得向上を支援しています。

令和6年度は、JA古川及び大崎市等の関係機関と引き続き連携し、それぞれの作物の生育調査ほ場を設置（子実用とうもろこし4か所、大豆2か所、水稲乾田直播1か所）、これらの調査データを基に栽培情報の発信や現地検討会で情報提供することで、栽培技術の向上を支援していきます。



↑JA古川主催の子実用とうもろこし播種実演会

## 重点活動の紹介

### 1：新たな担い手確保・育成・支援

地域の担い手が減少する中、新規就農者や女性農業者等を確保・育成することにより、新たな担い手としての定着を支援します。

### 2：管内農業法人育成・経営安定化支援

各市町の「地域計画」において担い手に位置づけられる農業法人の経営の安定化をはかり、持続的な経営を支援します。

### 3：古川なすの産地再興に向けた栽培技術の確立

生産者の高齢化や土壌病害の発生などにより栽培面積が減少傾向となっている中、省力化が期待できる栽培体系の確立や防除対策の実践を支援します。

### 4：アグリテック、グリーンな栽培体系の導入支援

水田農業の省力化・低コスト生産を推進するため、「環境にやさしい栽培技術」と「省力化に資する先端技術等」を取り入れた栽培体系の導入を支援します。

## 地域農業を支える若手農業者「大崎4Hクラブ」会員募集中!

大崎4Hクラブは、農業技術等の改善・研究活動や同世代の仲間づくりを中心に大崎管内20～30代の青年農業者13人で活動しています。若手農業者が減少する中、横のつながりを持ちにくい農業において、地域はもとより県内外の農業者等と交流ができることが魅力です。今年10月には、宮城県に全国の4Hクラブ員が集まる「全国農村青年交換大会 in 宮城」が開催され、プロジェクトの発表や先進農家の視察を行う予定で、受入れ準備にも熱が入っています。同世代のネットワークを広げたい、仲間とともに農業を盛り上げていきたい方、お待ちしております！（地域農業班 TEL0229-91-0727）



↑日本農業賞大賞受賞の(農)仙台イーストカントリーでの研修

4Hクラブについて詳しくはこちら→  
「宮城県HP 宮城県農村青少年クラブ  
連絡協議会」



Pick Up!

# 『株式会社まやまのさとうファーム』受賞おめでとうございます！ ～普及センター所長が聞いてみた、生産者の喜びの声～



大崎農業改良普及センター所長 佐藤です。よろしくお願いします。  
今回は、第3回全国トマト選手権（日本野菜ソムリエ協会主催）ラージ部門で最高金賞を受賞された『株式会社まやまのさとうファーム』代表取締役で、指導農業士の佐藤喜則さんにお話を伺う機会をいただきました。

所 長：この度は受賞おめでとうございます。  
反響はいかがでしたか？

佐藤代表：取引先やお客様から「おめでとう」と声をかけていただき、4Hクラブの昔の仲間からもお祝いの連絡がありました。やはり、テレビや新聞は反響が大きいですね。

所 長：トマト栽培を始めたきっかけを教えてください。

佐藤代表：水稻栽培と繁殖牛を飼養していましたが、牛をやめて平成12年から新たにトマト栽培をはじめました。「美味しいトマトなら売れる」と考えて、水分をコントロールするなどの試行錯誤を繰り返してきました。最近では、環境制御の技術を使い、光合成を意識した栽培をしています。環境制御の研修を受けた姪が経営に参画したことで、私自身も大変刺激を受けています。今後も様々な評価を参考にチャレンジしていきたいと思えます。

所 長：ありがとうございました。佐藤さん自身のこれまでの経験と、データに基づいた環境制御技術を融合させて、美味しいトマトづくりを追求されているんですね。佐藤さんのトマトを私も食べてみましたが、味が濃くて大変美味しかったです。これからの更なる御活躍を期待しています！



## 令和6年度大崎農業改良普及センター職員・主な担当業務

総括技術次長 門間【花き・経営】	総括次長 大和田【経営】	所 長 佐藤【作物】	技術次長（経営支援担当） 伊藤【果樹】
地域農業班		先進技術班	
班 長 石井【花き】 ・大崎市(古川・三本木)	小林【果樹】 ・加美町 ・農業士	本田【野菜】	班 長 大川【作物】 会計年度任用職員 田中
穴戸【花き】 ・色麻町 ・4Hクラブ	小松【野菜・経営】 ・大崎市(岩出山・鳴子) ・女性農業者	早坂【作物】	増田【花き】
			大津【畜産】 門脇【作物・経営】 土壌分析 高橋

発行 宮城県大崎農業改良普及センター 〒989-6117 大崎市古川旭四丁目1-1  
電話 (0229)91-0727 (地域農業班) FAX (0229)23-0910  
(0229)91-0726 (先進技術班)  
HP <https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/index.html>

普及センターHPはこちらから→

